

しろいしの実りが大集合！

第42回白石市農業祭

11月5日・6日の両日、ホワイトキューブで3年ぶりとなる農業祭を開催しました。42回目を迎えた今年の農業祭には、農家の皆さんが丹精込めて栽培した秋の実りが大集合！ 2日間で約23,800人が訪れました。

会場では農産物などの即売会をはじめ、姉妹都市である北海道登別市と神奈川県海老名市、本市と特産品相互取扱協定を結ぶ大阪府泉佐野市も出店した物産展を開催。お米の形をしたボールをゴールすると新米の白石産ササニシキがプレゼントされる「ライスゴール」や、酪農家支援をPRする原寸大ホルスタイン「キャッシー」を使った搾乳体験など、親子で楽しめる体験イベントも行われ、たくさんの笑顔であふれていました。

また、今年は「白石市福祉まつり2022」も同時開催され、福祉団体による作品展や福祉相談コーナーなどで賑わいました。



1_ズラリと並んだ白石の新鮮野菜 2_「ライスゴール」にチャレンジして新米ササニシキをゲット！ 3_搾乳体験は子どもから大人まで大人気！

新米の白石産ササニシキ どうぞ！

生産者が園児に新米を贈呈

10月17日、白石はるかぜ保育園の園児に、「宮城白石産ササニシキ復活プロジェクト」から新米の白石産ササニシキが贈呈されました。これは、「地元の農産物を知ってほしい」と市内すべての幼稚園・保育園に新米を提供し、給食で味わってもらおうとプレゼントしたものです。

この日は、3～6歳の園児59人がお米の話やクイズをしたあと、新米でおにぎり作りを体験。おにぎりを食べた園児は「お米が甘くておいしい！」と笑顔で話してくれました。



▲プレゼントされたササニシキでおにぎりを作る園児

子どものSOSを早期発見

児童虐待防止ポスターを作成

11月4日、白石みのり保育園で児童虐待防止ポスターの贈呈式を行いました。このポスターは、「児童虐待」の防止・早期発見につなげようと、白石警察署から依頼を受けた本市在住の古山真子さんが、幼児向けのデザインを考案し本市に贈呈したものです。これまで幼児向けのポスターやチラシはあまり見られず、子どもたちが身近な大人や先生に相談しやすいよう「言葉」ではなく「絵」を中心に表現することで、幼児が見てもわかりやすいデザインに仕上がりました。

この日は、白石警察署員が完成したポスターを活用し、園児たちに虐待行為に当てはまった場合の対応について説明しました。古山さんは「子どもたちがイラストを見ただけでもわかるよう工夫しました。言葉にしくなくても『はい』か『いいえ』で言えるところがポイントですね」と話してくれました。



1_白石警察署員の説明に耳を傾ける園児たち 2_ポスターのイラストを見て虐待行為を確認しました



▲堂々と考えを発表する金野さん(右)と佐藤さん(左)

親交を深めた2日間

第53回札幌市白石区中学生の主張発表会

10月14・15日、札幌市白石区で中学生の主張発表会が3年ぶりに開催され、本市から東中学校3年生の金野優衣さんと白石中学校3年生の佐藤那奏さんの2人が参加しました。金野さんは「新しい自分」と題し、2年間の海外生活経験が今の自分に生活に生かされていることを分かりやすく伝え、佐藤さんは「十人十色」と題し、苦手な人の接し方について、母からのアドバイスを受け、自ら考え立ち向かっていくということを力強く伝えていました。

自国の伝統文化に触れる

伝統文化体験教室

11月8日、古典芸能伝承の館碧水園で伝統文化体験教室を開催しました。この教室は、市内小学校4年生に「日本舞踊体験」と「茶道体験」を通して日本の伝統文化に理解や関心を深めてもらうと実施しているものです。

この日は、越河小学校と大平小学校の4年生18人が日本舞踊と茶道を体験。茶道を体験した児童は「自分でたてたお茶は少し苦かったけれど、茶道を学べて良かったです。外国の人に会ったら教えたいです」と話してくれました。



▲お茶のたて方の指導をうける児童